

makoto

浄土真宗本願寺派
仏教青年連盟機関紙「まこと」
平成19年3月31日発行
編集／発行：仏教青年連盟 広報委員会
印刷：創文堂印刷株式会社



〔まごころ137号〕
編集・三浦明利 南莊泉 中村道明 加藤心樹 藤原慈信
写真・漢英俊

01

特集1 学校

平安高校のみなさんにご協力いただきました。

04

グッズ紹介

教材キャンベーン始めました。

05

連載 彼國の便り①

少しでもご法義を交えた馴染みやすい法話。その1

06

レポート ゲームスクール

アメリカの日曜学校を報告します。

08

特集2 築地ロマンチカ

ご当地紹介。今回は築地市場界隈を散策してきました。

10

レポート 本山成人式

本願寺で行われた成人式を報告します。

11

連載 彼國の便り②

少しでもご法義を交えた馴染みやすい法話。その2

12

レポート 宮崎大会

全国真宗青年の集い宮崎大会を報告します。





学校

文・三浦明利 写真・淡英俊

今回の「まこと」のテーマは「教育」。

「授業以外で得られたことは何ですか？」の質問に、青年たちが語る青年たちの現場。宗門校の平安高校で取材をさせていただきました。

- Q1 好きな教科は
- Q2 授業以外で得られたこと
- Q3 イジメについて
- Q4 世界に伝えたいこと



池田 昌平さん

- A1 数学と物理。将来の夢はクルマや航空機の整備士です。
- A2 みんなとのまとまりです。学校では時間を守ることも身について、集団生活ができるようになりました。
- A3 学校や周りの人たちが、まずイジメ自体を見つけることから始めなくてはならないと思います。
- A4 人が信じているものは、他の人と比べるべきではない。世界ではテロなどが起こっているけれど、比べ過ぎて本質が分からなくなっているのではないかと思います。



成 悠紀さん(生徒会)

- A1 体育。小・中のあいだバレーをしていたんです。今でもバレーが大好きです!
- A2 生徒会に入って、裏方として支えることを経験しました。イベントで多くの人を楽しんでくれたときに得られる達成感は最高です!
- A3 イジメが観戦みたいにされている。テレビでいろんな専門家の人が評論しているけど、観戦みたいな雰囲気イヤ。イジメられている人にも原因があるなんて言う人もいるけれど「ナニ言ってるの!？」って思います。本人の立場になってあげたいけど、完全に本人になることはできない。けれど、身近な人から理解者になることが必要だと思います。
- A4 平安に革命を起こします! 本当の意味でみんながこの学校を楽しみたいと思えるようにしたいです。



山口 隆弘さん(陸上部)

- A1 現代文。小説が好きです。国語の教師を目指しています。
- A2 陸上で挫折することを学びました。また、それを乗り越えていくことを学びました。
- A3 言う側・受け取る側のギャップがあると思います。イジメてる本人はただイジっているだけの軽い気持ちの場合も多いと思います。でも、言われている本人にとってはそれが重たい一言だったりするのではないのでしょうか。
- A4 今を頑張って生きろ!



皆川 沙紀子さん(ダンス同好会)

- A1 体育。
- A2 ダンスの同好会ができて、大会に向けてみんなで一致団結して取り組むことを学びました。
- A3 最近になってイジメや自殺についての報道が多くされていますが、昔からあったことではないでしょうか。なぜ今なんだろうと思います。問題は「最近」という時期ではなくて、イジメや自殺自体に目を向けていくことが必要だと思います。
- A4 ずっと続きますように。ずっとダンス同好会が続いて、大きい大会へも出場するような部になればいいなと思います。



尾形 裕司さん・羽田 昭如さん

<尾形さん>

- A1 仏教。
- A2 この学校にいと、家の宗教のことが分かるようになりました。
- A3 イジメはしないけれど、イジメの現場を見ても知らないフリをして歩いてしまうオレ。「イジメなんてカッコ悪いぞ!」と言える勇気を持つと思う。
- A4 ブッダはいい人だぞ☆

<羽田さん>

- A1 同じく仏教。
- A2 クラブでライバル関係が築けたこと。ライバルがいることでヤル気がわいてきます。
- A3 イジメられている子はスゴく難しいことかも知れないけど、もっと主張してほしい。なにか手助けできるかも知れない。
- A4 京都の南部の加茂町をよろしく。

取材させていただいた生徒さん
掲載できなかった生徒さん
そして平安学園のみなさん
ご協力ありがとうございました!



¥0

◎教材キャンペーンはじめました。

2007.04.01-2008.03.31

教材委員会よりお知らせです。この度、仏教青年連盟では「教材キャンペーン」と題して様々なオリジナルグッズの中からお得なセットをお届けすることとなりました。セット内容は、研修会に便利な名札とクリアケースの2点です。これは各教区の仏教青年連盟および単位会における研修会限定のキャンペーンです。詳しくは、事務局までお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

※在庫が無くなり次第キャンペーンを終了させていただきますので、
研修会を行われる際にはお早めにお申し込みください。
※送料については着払いにてお願いいたします。

トートバッグ
¥600.-【一般価格】
¥550.-【登録価格】
B4サイズの書類が入るサイズ

名札
¥60.-【一般価格】
¥0.-【キャンペーン価格】
青・緑・黄・赤・紫

「まこと」
無償
年2回発行



クリアケース
¥400.-【一般価格】
¥0.-【キャンペーン価格】
赤・黄・緑・橙
A4サイズ、マチ付

彼國の便り ①

生かされている

中学生の時の「学校の先生になりたい！」という夢が実現し、今年で早二〇年目になりました。その間、小中高で児童・生徒たちと接し、彼らに言葉では言い尽くせないほど多くのものをもらいました。

私が初めて教壇に立ったときと今では教育現場も大きく変わりました。信じられないような事件や事故も連日のように報道されています。確かに教育現場にも問題はあり、マスコミはそれだけを取り上げているように思いますが、家庭には問題はないのでしょうか。両親とも忙しくて子供と殆ど話をしないという家庭も珍しくありません。ですから私は保護者会などで「二日二〇分でもいいから子供と向き合って話をしてください。」とよく言います。このことは子供が小さいときは特に大切だと思います。せつかく「話があるから聞いて！」と言っても、親が「今忙しいから後でね。」とか「そんなことはどうでもいいの。」などと言っていたらきっと子供は親に何も話さなくなってしまうです。そしてそのようなことは、少年少女による昨今の事件と無関係ではないような気がします。保護者と話して最近特に感じるのは、子供を叱らない親が増えているということです。子供に嫌われまいとしてそうしているのかも知れませんが、それは本当の愛情ではなく無関心なのではないでしょうか。

子供は親、特に母親の姿を見て育つと言います。私の母は七〇歳を過ぎて今なお元気で忙しい毎日を送っていますが、私が小さかったときも、きっと今以上に忙しかったと思います。でもどんなに忙しくても子供に無関心ということはありませんでした。今でも覚えていますが、中高の六年間手作りの弁当を作ってくれ、それには必ず何か二言書かれた紙が添えられていました。今振り返れば部活等で帰宅が遅くなり話す時間がなくても、いつも私のことを思ってくれていたのだと思います。私の家はお寺ではなく信仰についても押さえつけられることはありませんでしたが、朝夕必ずお勤めをしている姿を見て、手を合わせることは私にとってごく自然なことになりました。何事も、強制ではなく意思を尊重し姿や形で教えてくれたような気がします。

大学卒業後、京都で教員に採用されたにも関わらず、ひよんなご縁でアメリカに行くことになったときも反対はしませんでした。帰国後海外への旅が病み付きになり色々な国を旅しました。その体験談を通して私なりに今感じていることを書いてペンを置きます。

日本では学校に行けて、ご飯が二日に三度食べられて、近くにコンビニや病院があつて、薬に行ったり毎日お風呂に入れて当たり前と思つていますが、それは間違いだということを感じました。旅を通して私はたくさんの方々と出会いました。泊まるところがなくて見ず知らずの家庭に泊めてもらったり、食事をこ馳走になったり、アルバイトの世話をしてもらったりもしました。感謝の気持ちを示すための僅かながらのお金を渡そうとしましたが、彼らは決して受け取ろうとはしませんでした。私は感謝の気持ちを表す言葉が見つかりませんでした。私を含め多くの日本人は、もし何かをもらえばお返しに何かをあげたいと思うでしょう。でも、いかなる見返りも期待しない人にとのお礼をしたらいいか分かります。彼らはただ純粋に私に手を差し伸べただけだったのです。そしてこれは「全てを救わずにはられない」という阿彌陀様の本願と似ているところがあるのではないのでしょうか。自分がこうなりたいと願うのではなく、阿彌陀様の方から働きかけてくださるというのが浄土真宗のみ教えだと私は思います。そして様々な場面に遭遇して自分の力の限界を感じ、人は多くの人や物に支えられて、はじめて「生きていく」いや「生かされている」のだと気付かされました。家族の有難さも身にしみて感じるようになりました。みなさんはどう感じるのでしょうか。



畦森 本英
山口県 早稲(はやとも)
高等学校 教諭
仏教青年連盟 指導講師

ol in America

それぞれが楽しむダーマスクール

文と写真 三浦明利



⇨ Dharma School
Berkeley

アメリカでは日曜日になるとミサに行ったり、それぞれ自分たちの信仰する宗教の教会に行く習慣がある。ブディストチャーチ（＝お寺）にも日曜日になると、たくさんの人たちが集まる。毎週日曜日に開かれるのがこのダーマスクール。

一人で来ている人もいれば、夫婦や家族みんなで来ている人もいる。子供たちもたくさんいる。そこではみんなが一緒になって楽しんでいる。それは、それぞれが個々に楽しめているからだ。アメリカのお寺では、



⇨ Dharma School
Orange County

本堂に大勢あつまってきたよ

Dharma Scho



ダーマスクールの後にふるまわれる
カジュアルなOtoki



アメリカの仏教讃歌を作曲している
Dii Lewisさんもダーマスクールに参加してるよ



ギターの生演奏のBGMと
ともに明るいムードでお焼香

どんな世代の人も迎える用意がある。たとえば、カリフォルニア州オレンジカウンティでは最初は全員で過ごすのだけれど、そのあと世代別に分かれて、それぞれの世代にあったプログラムが用意されている。大人が少し難しい法話を聞いている間、幼い子供たちは青年から本を読み聞かせてもらったりする。実際にはもっと細かく世代別に分けられており、みんなが共有できる空間と、それぞれにあった個別の空間がある。

また、パークレーのダーマスクールでは誰もが参加できるように、ケジメとフランクさを兼ね備えている。新しい発想と伝統とが絶妙なバランスを保っているのだ。ジャズやレゲエでの音楽法要も行われているという。

子ども対象のプログラムしかないイベントでは、親は送り迎えだけしかしない。また、法要で大人対象のプログラムしかなければ、子どもは参加しない。

日本のお寺でも一緒に共有する空間、そしてそれぞれが楽しむ空間がもつとあればいいと思う。家族みんなで集えるお寺のカタチのヒントはダーマスクールにあるかもしれない。



小さい子供たちはお姉さんたちに
本を読み聞かせてもらってるよ



お寺に大きな体育館がある！



満堂で入りきれなかった人は
別部屋でモニタリング

築地ロマンチカ

文と写真・南荘泉



2007年という新しい年が始まって間もないころ、この時期にしては珍しい大雨の中、向かった先は東京「築地」。

築地駅を出ると、さっそく築地本願寺が現れる。「お寺？」とクエスチョンマークがついてしまうような、独特の雰囲気をつつ外観。中には大きなパイプオルガンなんかもあって、たまにコンサートも開かれている。ゆっくりと雨宿りしていきたいところだが、今日の目的地は閉店時間が早いから急がなくては。そう、今回リポートするのは「築地市場」だ。築地市場つきじしじょうとは、東京都中央区築地にある公設の卸売市場。東京都内に11ヶ所ある東京都中央卸売市場のひとつだが、規模の大きさと知名度の高さで、東京のみならず日本を代表する卸売市場なのだ。築地市場に向かう途中、巨大な魚のビルを発見。なんと、こう見えてもビジネスホテル。おそるべし、築地…。

さっそく市場に潜入してみる。市場内や周辺には「ターレ」と呼ばれる構内運搬車や自転車、トラックなどがたくさん走っていて、ボヤボヤ歩いていたらとても危ない。仕事の邪魔をしないように気を付けながら進んで行くと、前方に広がるのは水産物仲卸業者の売場。この時間はすでに取引が終わって



るのでシンとしている。と、傍らに見たことがないほど大量の「ハカリ」の山を発見！少し先には「切手・ハガキ」の表示、視線をあげると「診療所」の看板。「瞬」「ん？ここはどこだったかな？」と考えてしまった。

築地市場内にあるこのエリアは、まるで小さな街なのである。それも、とても懐かしい雰囲気なの。一般的にはネタの大きくて新鮮な寿司屋や定食屋が有名なイメージだが、市場内にはこのように、ここで働く人たちのための道具屋・コーヒー専門店・パン屋・本屋・診療所や歯医者まである。ガイド誌片手に寿司屋に行列を作る観光客や、たまり場で煙草をふかすオジさま方、店先で話し込む人たちが賑わっている。ふと私の横を「寒いねえ！」と言いながらオジさんが通り抜けた。こういう声が、ここでは自然に飛び交っている。

市場の外には文字通り場外市場が広がっている。現在の場外の土地は、もともとは海だった。江戸時代の大火事で浅草の本願寺が消失した折、築地に移築することになり、この辺りに住んでいた人々がここを埋め立て、現在の築地本願寺の場所に、新しい寺を再建したというお話。「土地」を「築地」から「築地」。なるほど。当時の築地本願寺は、現在の場外エリアの方向を向いて建てられ、場外の通りは参道となり、参道の両脇には数々のお寺と墓所が並んでいた。つまり、現・築地本願寺と場

外の土地全体が、かつては築地本願寺の境内だったというのだ。

この日場外は、大雨にもかかわらずたくさんの観光客や働く人たちが溢れていた。

場外には主に魚屋・だし屋・小料理屋・一般客相手の小さな店などがある。店先を通ると「いらっしやい！」、引き返してみると「おかえり！」。温かい笑顔に大きな声。こちらまで元気になる、江戸っ子魂だ。「チャリンチャリン！」自転車のベルを鳴らしながら、オジさんが人のあいだを自転車で駆け抜ける。「道開けるーい！」ここにも江戸っ子発見。

雨の築地を見渡すと、市場の周りには高層ビルが建ち並んでいる。活気に満ちた昔ながらの市場と現代的なビル群が同じ景色の中に見えるのは何とも不思議な感覚だが、それらが共存しているということは大切なことだと感じた。この市場、実は数年後に別の場所に移転してしまうため、この築地からは姿を消してしまう。あのハカリの山や散乱した段ボール、まるで昭和にタイムスリップしたような光景がなくなるのだと思うと少しせつなくなつた。この築地市場の風景が少しでも多くの人の心に残ることを願う。さて、次回はどこへ行こうかな。

本山成人式

文 三浦明利

2007(平成19)年1月14日(日)第55回「本山成人式」が本願寺総御堂で行われました。昨年より多く、143名の新成人たちが本山に集結し、本山成人式ならではの厳かな式典となりました。

祝宴は京都東急ホテルで、ゴージャスな食事のパーティームードの中、賑々しく行われました。アバンギャルドなライブと、やっと飲めるようになったお酒で会場のテンションも上がります。京都仏青がホストとして行われる、超豪華賞品が用意されたビンゴゲームも恒例になっています。成人式を受けるなら、祝宴まで出るべし！振袖を着た新成人から、スーツで身を固めた新成人、そして付き添いの方まで「喜二憂一」成人を迎えた皆さん、おめでとございます。

2008年に二十歳になるキミたち！

本山成人式に興味があれば事務局へお問い合わせを！



彼國の便り ②

「言葉」



おかん
公立中学校講師
私教青年連盟 中央副委員長

青少年のいじめや、自殺などの事件がたくさん浮上してしまっている今日では、社会やマスコミは学校という場所にすごく厳しい評価をするようになってきています。果たして本当に学校だけの責任なのでしょうか。

私は英語の講師として現在の中学校に勤めて四年目になります。

昨年のですが、私が担当させて頂いていたクラスの女子生徒が、休憩時間に突然私の手を握って「私、殺されるー先生たすけてー怖くて学校に来たくない」と訴えてきたことがありました。突然のSOSに驚きましたが、話を聞くと他クラスの女子数名が休憩時間になると必ずやってきて、体に危害を加えるわけではないけど「死ねばいいのに」など、数々の暴言を言った後、机を蹴って去っていくなど、毎日先生達の目の届かない所で行っていたそうです。「担任の先生には相談した？」と聞くと「担任に話したら今度は告げ口したって言われるし怖くて話せない。」と。

すぐに担任に報告して学年の先生が丸となって取り組み、その生徒は、休むこともなく今は毎日笑顔で学校に来ています。しかし、その時に彼女をいじめていた生徒が、次は皆からのいじめのターゲットにされていたのです。いじめというのは、そうやって繰り返し返されていくんだ、ということの当たり前にした出来事でした。学校では、「一番近くにいるはずの担任や、相談室の先生、生徒指導の先生ではなく、授業だけしか関わることのない講師の私に「私、いじめられているんです」と勇気を出して言ってきた生徒に「ありがとう」と思うのです。

いじめという事実は、残念ながら今も昔もあると思います。私自身、中学生だった頃、クラスの女子からいじめを受けていたことがありました。その時の担任の先生はというと、いじめの事実は知っていながら何の対応もしてくれませんでした。その時、すごく悲しい想いをしたので、直接SOSを求めて来てくれた彼女に対して、絶対見て見ぬフリはしたくない、と思いました。他人事だとはどうしても思えなかつたのです。学校という場所は家と同じように、生徒（子供）の生活の場所であり、もしも何か問題があった時には、すぐ誰かに相談できる人がいないといけない場所だと思えます。それは学校だけではなく、家でも一緒だと思います。

知らず知らずのうちに発した自分の言葉、また、ほかの人から言われた言葉によって、悪気はなくても傷ついている人がいる、傷ついている自分がある。人の目の届かないところで泣いている人がいる、泣いている自分がある。これが「文字」ではない口に発する「言葉」の怖さではないでしょうか。「言葉」というものにもっと厳密にならなくてはならないといけなような気がします。

2006全国真宗青年の集い宮崎大会

〜テーマはありがとう〜
2006年8月5日(土)〜6日(日)

文 加藤心樹 写真 中村道明

私は、宮崎に向かうプロペラ機に乗りながら、数年前のエピソードを思い出した。「ありがとう」という言葉は、私にとって1つのエピソードを回顧させる。数年前、和歌山で友人と外食したときのことだ。レジで会計を済ませた後、店員が「ありがとうございました」と言った。それに対して友人が「ありがとう」と言った。私は、「ごちそうさま」というのが普通ではないか?と思ったことを胸にしまい込んでいた。そんなことを思い出しながら宮崎空港に降り立った。大会当日。延々と続く美しい海岸線を右手に眺めながらワールドコンベンションセンターサミットへ向かった。会場へ到着すると、全国から集まる若者であふれかえていた。そして、開会式が始まりハブニングはあったものの、着々と大会は進行していった。私は、今回の宮崎大会でどうしても気になることがあった。それは2日目のプログラムに組まれている「運動会」だ。なぜ運動会か?と疑問に思いつつ1日目のプログラムが終了した。

大会2日目。ある意味、待ちに待った運動会だった。選手宣誓もあり、本格的だった。運動会といえは、1人で走る「かけっこ」だと連想していたが、そこには、1人で行う競技などなかった。チームが団結しないとクリアできないものばかりだった。決して、運動会というものを体験できる年齢ではないにしろ、いつの間にか笑顔になった。人と一緒に競技をクリアすることに夢中になっていた。

大会終了後、宮崎を後にする車中で思い出した。私は、今回の宮崎でどうしても成し遂げ得たい事があった。それは、マンゴーを食べること。でも今回はやめておこう。マンゴーの代わりに大きいお土産を覚えてもらったような気がした。それは、なぜ人が「ありがとう」という言葉を言うのかということだ。そういえば、大会スタッフの笑顔を見て、私も微笑んでしまった。

宮崎の暖かい空気は、人を笑顔にさせる。ありがとう。



告知

◎福岡仏教青年連盟25周年記念大会
2007年6月24日(日)

福岡仏教青年連盟の活動25周年を記念して、
作家の田口ランディさんを迎え講演会を行います。

会場 本願寺福岡会館

福岡教区教務所内仏教青年連盟事務局

電話 092177119081

福岡仏教青年連盟25周年記念大会

根をもつこと。翼をもつこと
～いま私たちにできること～



2007年(平成19年)6月24日(日)

第1部 会場 時間	田口ランディさん講演会 本願寺福岡会館 13:00～	第2部 会場 時間	懇談会 ドリスライナー 14:30～
-----------------	----------------------------------	-----------------	--------------------------

参加費 一般5千円 学生3千円
(特別1部2部参加しての参加費をお断りします)

申込締切 5月24日

田口ランディ Randy Tapachi

2007年夏・秋号
2007年仏教青年連盟25周年記念大会「根をもつこと、翼をもつこと」をテーマにした講演会を開催し、現職作家の田口ランディさんをお招きし、講演会を行いました。ランディさんは「根をもつこと、翼をもつこと」をテーマにした講演会を開催し、現職作家の田口ランディさんをお招きし、講演会を行いました。ランディさんは「根をもつこと、翼をもつこと」をテーマにした講演会を開催し、現職作家の田口ランディさんをお招きし、講演会を行いました。

「編集後記」

三浦明利 教育現場を知りたいと取材にでかける。青年の社会問題は他人の問題？取材で得たりアルなボイスが、傍観し続けてきたなまぬるい私を当事者として自覚させてくれる。ただ、冊子にまとめて「評論家」になって満足するわけにはいかなないと…。次はどこへ出かけようかな。また新しい発見があるといいな！。

南莊泉 築地の男は晴れでも雨でも長靴。長靴がこんなに似合う人たちを初めて見ました。取材していた私も、ブーツを脱いで長靴に履き替えたくなりました。全国のみなさん、ぜひ築地に遊びに来てください。

おかん 最近結婚しました！もちろん仏前結婚です。バリバリ新婚ホヤホヤのおかんこと大沼浩美です。今回は「学校」がテーマということで、中学校で働いている私おかに「原稿を書いて」との話がきました。少しでも多くの人に今、実際に学校で起きていることに目を向けてもらえば…と思います。

加藤心樹 俺、参上！みなさん宮崎大会お疲れさまでした。また、宮崎教区のスタッフのみなさんありがとうございました。個人的には、宮崎大会開催の時点で既に来年の本願寺大会に向けて臨戦態勢に入りましたが、オーバーヒート気味です。最初からクライマックスだぜえ！

藤原慈信 何かと話題の尽きない「教育問題」を今回の「まこと」の編集を通してより身近に感じたかった。にも拘わらず、平安学園の取材では「ああ、青春時代に戻りたい」と叶わぬ夢ばかり考えてしまった(恥)。田舎の平穏な高校生活を送った自分にとって今の複雑な学校生活を完全に理解することは不可能だが、ひとつだけ伝えたい。「妥協と後悔をして」「私の生かされる居場所」に辿り着かされることもまた素晴らしい」。さて、そろそろ自分の青春を探しに行こかな。

浄土真宗本願寺派
仏教青年連盟機関紙

wakata No.137

平成19年3月31日発行 印刷 創文堂印刷株式会社
編集/発行 仏教青年連盟 広報委員会

2007.7.28-29

SHINSHU

YBA

CONVENTION

at

HONGWANJI

2007全国真宗青年の集い 本願寺大会

<http://www2.hongwanji.or.jp/yba/>

浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟

テーマは

en

2007.7.28-29

SHINSHU

【浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟 広報委員会】

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル

浄土真宗本願寺派 宗務所内

電話:075-371-5181(代)

メール:yba@hongwanji.or.jp

<http://www2.hongwanji.or.jp/yba/>



4910753715181
00137